

## 「いま必要なのは人と予算」 7/29夏の学習会開催

講演：山崎 洋介さん（奈良市立小学校教員）

（ゆとりある教育を求め全国の教育条件を調べる会事務局長）



7月29日（日）愛教労夏の学習会が開催されました。奈良市立小学校の教員であり、「ゆとりある教育を求め全国の教育条件を調べる会」の事務局長でもある山崎洋介さんをお招きし、「いま学校に必要なのは人と予算」と題し講演を行っていただきました。

教育財政は、愛教労の苦手とする分野の一つですが、山崎先生の徹底した調査によって得られた「エビデンス」に基づいたお話は説得力十分で、「この説得力を県教委交渉で活かしたら・・・」と羨望のまなざしを向けてしまいました。

「部活動、道德教育等々、教育には賛否両論の様々な問題があるが、『教育にカネと人を増やせ』という主張に反対する人はまずいない。『教育条件基準』を国と自治体に保障させる運動がまず必要だ」という主張は、多くの参加者の

共感を得たように感じました。

学習会後の山崎先生を囲んでの懇親会では「働き方改革も良いが、根本の解決は人と金だ」旨の詳しい発言がありました。また、「相互批判は、組織の健全化に繋がる」と、「組合内民主主義」の重要性で一致しました。また、その場で愛教労の「教育財政プロジェクト」の構想が打ち出され、夏休みの終わりに九州へ「教育財政を学ぶ遠征研修」へ赴き学習するプランが提案されました。

学習会で知識を得て、人と出会い、次のプロジェクトへつながる。まさに理想的な「くみあい（人と人とが手を組み合い、輪が広がる）」活動につながった夏の学習会となりました。

講演後の分科会の様子は以下の通りです。

### 分科会1

「労働安全体制の確立」をテーマにレポート発表と討議が行われました。自ら衛生委員に立候補した組合員の学校では、月半ばと終わりに「在校時間記録」を衛生委員が回収し、業務負担の軽減を検討するとともに、「在校時間」の集計を掲示板に張り出し「見える化」することで、勤務時間に対する意識を啓発している事例が新鮮でした。若手組合員から「衛生推進者資格」の取り方の質問が出るなど、労働安全体制確立への闘いは、取り組むべき余地が大いに残されていることを感じました。

### 分科会2

3本のレポートが報告され、活発な論議が展開されました。

① レポート：アクティブラーニングの研究指定校になり、2年目の11月に研究発表会が開かれ、それに対する授業への締め付けと、発表のための研究のようになってしまっている事への怒りでした。

討論では、以前研究指定校に勤務していた経験とそこでの闘いが出されました。また、学校づくりの観点からは、やむを得ず研究指定をやるとしても、子どものためにどう役立てていくのかということの話し合い、共通理解を深めていくことの重要性が出されました。

② レポート：「学校文集は何のために？」「運動会、自然教室、息つく間もない5年生」などの組合機関誌に載せた主張の多くが改善されてきているレポートでした。

5年生の野外学習が4泊5日から、主張して最近やっと2泊3日となった。三河の教育の大変さと業者によるプール清掃の実施など各地の取り組みが交流されました。

③ レポート：措置要求で、自分の職場だけではなく、市内すべての学校に男女別休養室が設置された取り組みでした。討論では、労安法違反をもとに出して

いくと、措置要求の審議途中であっても、要求内容が実現することがある。昼の休憩時間が取れない実態を証拠をつきつけ、勤務の割り振り変更で、休憩時間を確保するように求めた経験。校長に直接要求し、実現した経験交流をおこないました。

### 分科会3

全体会講演の山崎さんにも参加していただき、教育予算に係わる問題を話し合いました。レポートは3つです。

「進む学校統廃合と稲沢市のプラスワン政策」では、公共施設削減検討が全自治体に押しつけられている現状と、情報を早くつかみ知らせることの大切さが話されました。また、市長の目玉政策として市独自の講師を多く採用していることの是非についても提起されました。参加者からは、どうして稲沢は阻止できているのか、「いじめ」対策としてクラス替えが必要という声にどう対抗していくのか、といった質問が出されました。どのような教育が子どもにとって望ましいのかという議論を作っていくことが大切です。

人的配置については、尾北地区の各自治体を比較した詳細な資料が出されました。犬山市が、独自で30人程度学級を実施していることだけでなく、英語講師の直接採用や男性校務員の各校配置など、他の地域でも実現していきたい内容が多くありました。参加者からは「中学校で受け持つ生徒数の上限を設けることはできないのか」とか、「市費で雇われた担任は給特法に当たらないが残業はどうなっているのか」という質問が出されました。

「PFIと学校給食」では、PFIの仕組みと問題点について説明されましたが、経済の複雑な仕組みを短時間で説明するのは難しく、問題点を分かりやすく説明していくことが課題であると感じました。

## 採用試験会場前で激励と宣伝 7/21



今年の採用試験日は例年よりも蒸し暑く、徒歩で最寄り駅より受験会場までやってくる受験生は、校門に入る頃には汗びっしょりでした。

今年は、どの会場も例年よりも早い時間に会場の校舎内に入れたようで、炎天下で、列を作り並ばされている様子はありませんでした。

愛教労は、全教・愛教労の活動内容・加入のお知らせ、共済チラシなどを1000部セットにして、3会場を延べ20名の組合員で配布しました。

「子どもが安心して学べる学校」の主張には、未来の同僚の受け取りは良く、どの会場も30分程度でチラシはなくなっていました。

「がんばって」「熱中症に気をつけて」「笑顔で笑顔で」との言葉に、ホッとした表情を浮かべる受験生。組合の宣伝と同時に激励の意味もあることを再認識しました。

受験生の中には知り合いや、同じ勤務校の同僚、採用試験講座での仲間と顔を合わせ、合格を誓い合っている姿が見られました。

## 2度と子どもの命が亡くならないための緊急の申入れ

豊田市内の一年生が、校外学習中に熱中症で亡くなるという痛ましい事件に対して、愛教労は三河教労と連名で、7月30日に豊田市教育委員会教育長に対して申し入れをおこないました。以下全文です。

貴職におかれましては、豊田市の教育の発展のためにご尽力いただき有難うございます。

豊田市では学校行事後に小学1年生が亡くなるというたいへん不幸なできごとが起きました。わたしたちの組合は「子どもと教職員の命と健康を守る」を大きな柱として活動をしてきました。同じ愛知県。豊田市の教育にかかわる団体の一つとしてこの事故を防ぐことができなかったことに痛恨の極みです。

熱中症予防は喫緊の課題です。そこで緊急に以下の申し入れをします。教育委員会と労働組合という立場を超えて、「子どもの命を守る」という一致点でともに行動をしていきたいと考えます。

記

- 1、小中学校の全教室（特別教室を含む）に大至急エアコンを設置すること。  
\* 9月以降も猛暑が予想されます。来年度を待たずに大至急行動に移すこと。
- 2、7・8月の部活動を含むあらゆる活動を中止すること。
- 3、来年度以降、小学校の部活動は中止すること。
- 4、来年度以降、中学校の部活動を7・8月は中止すること。

## かがやけ！みんなのえがお

2019年度教育予算増額をめざし えがお署名 7/25 文科省提出

### 教育予算の増額を！ 教育の無償化推進を！ 教職員定数の抜本的改善を！



文部科学省概算要求に対する要請署名9万1462筆を、文部科学省に提出する集会在、文部科学省前でおこなわれました。提出に先立ち、各地域からの報告と決意表明がありました。その後、参加者が見守る中、文科省職員に直接署名を手渡しました。この提出行動に愛教労は代表団を2名派遣しました。

概算要求とは、各省が、財務省に対しておこなう、翌年度の事業に対する予算要求で、毎年8月31日までに各省が作成して財務大臣に提出するものです。「えがお署名」は、この概算要求期に私たちの要求を文部科学省に伝え、反映させていくことを迫る署名です。

その後「夏季闘争勝利！最賃今すぐ1,000円以上！」をスローガンに日比谷野外音楽堂での中央総決起集会に参加しました。「最低賃金の大幅引き上げ、2018年人事院勧告の現状、9条改憲ノー3000万人署名」の3点を強調した集会でした。

全国からは、生協労連から「岐阜では最賃が低いいため毎年4,000人近くの若者が県外に流失している。いまの枠組みでは地域間格差はなくなる。全国一律の最賃制と今すぐ1000円・1500円の引き上げを求め

る」、宮城一般からは「最賃3%のペースでは、宮城が1000円になるのは8年後と震災復興のためにも早期改善を」と訴えました。高知自治労連からは、西日本豪雨災害での自治体職員の災害対応にふれ「減らされすぎた人員体制の拡充と、災害対応業務に就く正規・非正規職員の処遇改善を求める声大きい。自治体労働者の労働条件が、住民の命と暮らしを守るのにふさわしいものになっているのか問題だ。最賃の地域間格差と同様に、公務職場でも地域手当による格差が広がり、人材確保も困難になっている。日本全国どこでも安心して働き暮らし続けられる地域を住民とともにつくっていききたい」との発言が続きました。

集会後は、銀座デモに出発。サウンドカーを先頭に東京駅の鍛冶橋駐車場までコールの声を響かせました。

